

昭和53年度第8回シグマ委員会運営委員会議事録

日 時 昭和54年2月23日(金) 13:30～17:30
場 所 原研東海研研2棟 227号室
出席者 塚田(主査, 原研), 関(MAPI), 中嶋(法政大), 飯島
(NAIG), 大竹(動燃), 松延(住友原工), 田中, 梅沢,
田村, 坂本, 更田, 五十嵐, 菊池(原研)
オブザーバ : 原田, 小山, 浅見(哲)(原研)

配布資料

1. 前回議事録
2. 各WG, 各常置Gの54年度計画書
3. ガンマ線生成断面積検討小委員会よりの答申
4. JUPITER 解析用元素一覧
5. NEANDC Specialist Meeting on Neutron Cross-Sections of Fission Product Nuclei
6. Tentative Program for Invited Session for the 1979 Conference on Nuclear Cross Sections for Technology
7. 1979 Knoxville Conference 招待講演候補について
8. Dr.M.K.Mehta からの依頼について
9. NEA Data Bank Committee : Meeting of the Bureau, Paris, 18 th January 1979
10. NEACRP - 350' A' : Summary Report of Discussions held at the NEA Data Bank, 19 th January, 1979
11. Meeting on Nuclear Data of Higher Pu and Am Isotopes for Reactor Applications
12. F.G.Perey, "Covariance Matrices of Experimental Data"

議 事

1. 前回議事録確認
2. 54年度活動計画

資料(2)により各WG, 各常置Gのリーダーから説明があり討議を行った。
概要は次の通り。

(1) 燃料サイクル核データWG (梅沢)

53年度に引続いて現状の問題点の整理をし核データとの関連をレビューする作業を行う。後半には、核データの sensitivity analysis を行いたい。アクチナイドの生成消滅、環境安全の見地から黒井氏(原研)、荒木氏(原研)を新委員として追加したい。

なお、この新委員の追加は了承された。

(2) 重核データWG (松延)

error file 作成の検討、核データ評価の手法についての検討、理論計算コード作成の検討、新たな測定データの watch 等を行う。

これに対し共鳴パラメータの評価の問題が残っていることが指摘された。

(3) FP核データWG (飯島)

JENDL-2 FP ファイルの充実化、JENDL-3 のためのレベル密度パラメータ等の系統性の調査、評価手法の改善のための調査を行う。

(4) 軽・中重核データWG (田中)

評価作業結果の見直し、核種間の Consistency のチェックを行って評価結果をブラッシュ・アップするとともに論文へのまとめを行う。~60 MeV までの高エネルギー領域の中性子核データの調査、勉強会を行う。

これに対して、STEK integral test の検討、核融合および遮蔽データとの関連等について発言があった。

(5) 積分評価WG (菊池)

JENDL-2 の炉定数を作成し、簡易ベンチマーク・テストを行う。

なお、この件については後の議題で改めて討議することにした。

(6) 遮蔽定数WG (小山：宮坂代理)

共鳴の自己遮蔽因子の作成法についての検討，共鳴間の window の影響についての検討を行う。これらのために外注計算費（100万円）が必要である。

これに対して，核融合炉への適合の問題，核融合との関係の筋道の整理について指摘があった。

(7) 崩壊熱評価WG (中嶋)

崩壊データ・ファイルIを10月頃までに完成させ崩壊熱計算に入る。崩壊データの収集評価および崩壊熱測定データの収集検討は継続して行う。

これに対し，崩壊熱計算の精度，崩壊データファイルIと ENSDF との関連等について質問があり，また，ファイルIは早く公開したらどうかとの指摘があった。

(8) 核構造データWG (田村)

A-chain の評価では，A = 123, 125, 127 の評価を53年度に引き続いて行い，その終了後にはA = 126, 128, 129 の評価を行う。 ENSDF, NSRFの利用を計るため， ENSDF のサブファイルを作り，核図表改訂の基礎データの整理を行うほか検索コードを作成する。評価の質を高めるため評価者のトレーニングセミナーを開催する。

これに対して，A-chain 評価の作業量，人員等について討議が行なわれた。

なお，(7)，(8)に対する久武委員（欠席）のコメントが事務局より紹介された。

(9) 熱中性子文献G (坂本)

文献の整理出版作業を継続して行い，5月までに終る予定である。文献収集はチェック・シートでやっているが，核データセンターの原子分子グループで開発中の計算機処理システムの活用を考えている。

これに関連して，文献収集を国際的にやる話はその後どうなったかと

の質問があり、その後の事情を調べ促進させることにした。

(10) CINDA グループ (田中)

今年度と同様の形でやる。

(11) WRENDA グループ (五十嵐)

今年度末に格納・検索システムが完成するので、来年度は日本のデータの入力を行う。国内のリクエストは常時受付けている。

3. ガンマ線生成断面積検討小委員会の答申

飯島委員から資料(3)により、小委員会からの答申の内容について説明があった。その中で組織、仕事のスコープ、答申への少数意見、WGメンバー候補等が概説された。

これに対して、マンパワーの問題、軽・中重核データWGメンバーとの重複の問題等について議論が行われた後、本年4月より発足することで承認された。なお、具体案については飯島、北沢、田中、五十嵐各委員に一任し小委員会は解散することにした。

4. JENDL-2

大竹委員より動燃が行う JUPITER 解析に関連して次のような要請があった。

この解析に JENDL-2 データを使用したいので、本年9月初めまでにすべてのデータの積分チェックを終了して使えるようにして欲しい。解析に必要な核種は資料(4)の通りである。

これに対して、とくに問題になるのは重核および構造材核種(Cr, Fe, Ni)であることが指摘され、これらの核データの評価を重点的に行うことになった。このために、これら核種の評価担当者、CG、大竹委員を中心に近日中に会合を開き検討することにした。

5. 本委員会の時期について

次の本委員会を4月27日(金) 11:00～に東京本部で行うことにした。